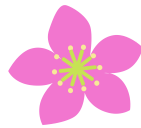


子ども図書研究室だより



できごと

令和元年11月18日(月)、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップを会場に「第27回静岡県図書館大会」が開催されました。

午前中には「ソーシャル・イノベーションを巻き起こす図書館へ」というテーマでの対談が行われ、午後は6つの分科会が開催されました。そのうちの学校図書館を主題にした第5分科会では「やってみよう！ブックトーク～授業に使える司書教諭・学校司書の技～」というテーマで、東京学芸大学講師、武蔵野大学講師の石橋幸子先生の講演とワークショップが行われました。詳しい内容は2ページ目で紹介していますのでご覧ください。



「子ども図書研究室講師派遣事業」ご参加ありがとうございました

今年度も、県内市町立図書館や読書関連団体のの方々を対象とした「子ども図書研究室講師派遣事業」を実施させていただきました。今年は9団体を対象に研修を行い、どの会場でも多くの質問が上がるなど、熱心に受講していただきました。

2019年度実施状況

読み聞かせ入門	3団体
子ども図書研究室案内と活用方法案内	1団体
小学校低学年から中学年への読書案内	1団体
小学校高学年から中学生への読書案内	3団体
ブックトーク入門	1団体

来年度も上記テーマで引き続き事業を実施する予定です。当館にとっても様々な団体の方と直接情報交換ができる貴重な機会となります。御応募お待ちしております。

全国SLA主催 2020年度学校司書研修講座

学校図書館法改正により学校司書が法的に確立され、配置の努力義務が課せられました。各地で学校司書や学校図書館スタッフが配置されるようになってきましたが、研修機会の不足が指摘されています。

そのため全国SLAは教育学や発達心理学、図書館情報学、学校図書館学等の基礎を学ぶ研修を学校司書として勤務している方に向け開催します。

■概要■

- ・「学校司書のモデルカリキュラム」に準じて領域や講座を設定しています
- ・2020年4月～2021年2月の間で、全7領域42講座を開講します(1領域全6講座の出席を原則)
- ・全7領域(42講座)を受講された方には修了証を交付。既に受講された領域がある場合は、未受講の領域を受講していただいた後、修了証の交付となります

■対象■

学校司書または同様の業務をしている方、学校図書館ボランティア、司書教諭、学校図書館支援センター担当者、教育委員会学校図書館担当者、公共図書館職員、学校図書館関係企業の担当者等

■定員■

各領域40名(領域ごとの申込みが必要)

■会場■

学校図書館センター4階会議室

〒112-0003 東京都文京区春日2-2-7

■問合せ■

全国学校図書館協議会 研究調査部学校司書研修講座係

TEL: 03-3814-4317

FAX: 03-5804-7546

kenkyu@j-sla.or.jp

詳しくは全国SLAのホームページをご覧ください。



静岡県図書館大会 第5分科会 学校図書館報告

講師の石橋幸子氏は長年小学校教諭として勤められ、誰でも学校図書館を使って授業ができる事を目指して司書教諭としてブックトークをしたり学習年鑑の使い方を伝えたりされてきました。学校でのブックトークの様子や学校ならではの工夫について、お話しいただきました。

ブックトークの魅力はたくさんあるが、様々な本を紹介するため、児童生徒・教員双方の多様なニーズに一度に答えられることもその一つ。学習のねらい、発達段階や読書力の差、普段読まないような様々なジャンル、新刊から読み継がれている本、本だけでなくDVDや動画など学校図書館のあらゆる資料の紹介などを心がけている。学校図書館としての魅力は、ブックトークから様々な学習活動への発展が可能なこと。他にもたくさんあるが、一番はやって楽しい、聞いて楽しいこと。聞いた子どもたちが読んでみたいと言ってくれるととても嬉しい。



学校図書館でのブックトークは授業ですることがほとんど。ブックトークを聞いた子どもたちから感想をもらうが、「本はきれいだけどつい読みたくなった」「いろいろな本を読むきっかけになった」「いつもおもしろくて、今日はブックトークと先生が言うときはうれしかった」など感想をもらった。ただ、本の紹介をして「面白かった」で終わるのではなく、実際にどれだけの子どもが読んでいるのか、読んで感じたことを表現できているのかまで考える必要がある。さらに、授業の一環なので様々な言語活動への展開が望ましい。読む→考える・書く→伝える→さらに読むの流れを作りたい。また、学校なら「一緒に読もう」と共読みにも繋げやすい。そこから深い学びも得られる。

子どもたちに紹介した本を読んでもらうには、ブックトーク後の学習が重要。必ず複本を準備したり、紹介した本を一定期間教室に置いて子どもたちが読む時間を確保したりする。ブックトーク直後に5～10分読む時間を設ける「味見読書」も有効。学校司書、司書教諭ならば、感想や読み終わった日付を書き込めるようなブックトークワークシートを作って読ませる工夫もできる。ブックトークで読書会の課題図書を紹介し、子どもたちはそれを聞いて読む本を選び、後日読書会を開く活動もしている。

授業でのブックトーク活用例として、5つの例を資料に付けていただきました。その中で、小学校4年生を対象に国語の授業で行ったブックトークを実演していただきました。紹介されたテーマと本は以下のとおりです。

テーマ「へえー！なるほど！をどうぞ ホネの不思議」

『ヒトの親指はエライ！』	講談社
『動物ふしぎ発見 パンダの手には、かくされたひみつがあった！』	くもん出版
『モグラのもんだいモグラのもんく』	小峰書店
『なるほど動物形態学 クジラも海でおぼれるの？』	偕成社
『ホネホネたんけんたい』	アリス館
『フリーズル先生のマジック・スクールバス 恐竜さがし』	岩波書店

講演会では参加者が各自持ち寄った1冊の本を紹介しあい、その本を使ってどのようなブックトークを作れるかを考える時間も持たれました。「最初はうまくいかなかったけど、まずはやってみること。ブックトークをしていくなかで、本を選ぶ力もついてくる」という石橋氏の言葉で、参加者はブックトークをやってみよう！という楽しみな気持ちになったようです。

当日配付された資料は当館WEBサイト「静岡県図書館大会」のページで公開しています。また、「静岡県図書館協会会報 no.74」にて図書館大会の概要を掲載しています。(眞子)



子どもの本に関する賞

この1年の間に発表された子どもの本に関する受賞作をご紹介します。大賞メインのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。

紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞の事典』（日外アソシエーツ刊 2009年）や『海外文学賞事典』（日外アソシエーツ刊 2016年）などで確認することができます。



種類	2019年 受賞作品
コールドコット賞	『Hello, Lighthouse』 Sophie Blackall／作 Little, Brown 邦訳『おーい、こちら灯台』 山口 文生／やく 評論社
ニューベリー賞	『Merci Suárez changes gears』 Meg Medina／著 Candlewick Press 邦訳『スアレス一家は、今日もにぎやか』 橋本 恵／訳 あすなろ書房
ケイト・グリーンウェイ賞	『The lost words a spell book』 Robert Macfarlane／文 Jackie Morris／絵 H. Hamilton 未邦訳
カーネギー賞	『The poet X』 Elizabeth Acevedo／著 HarperTeen 未邦訳
日本絵本賞	大賞:『もぐらはすごい』 アヤ井アキコ／作、川田伸一郎／監修 アリス館 絵本賞:『大根はエライ』 久住 昌之／文・絵 福音館書店 『ためきの花よめ道中』 最上 一平／作 町田 尚子／絵 岩崎書店 翻訳絵本賞・読者賞:『あめだま』 ペク ヒナ／作 長谷川 義史／訳 ブロンズ新社
坪田譲治文学賞	『ペンギンは空を見上げる』 八重野 統摩／著 東京創元社
講談社出版文化賞・絵本賞	『つくえはつくえ』 五味 太郎／[作] 偕成社
産経児童出版文化賞	『それでも「ふるさと」』 (全3巻) 豊田 直巳／写真・文 農山漁村文化協会
日本児童文学者協会賞	『むこう岸』 安田 夏菜／著 講談社
日本児童文学者協会新人賞	『ピアノをきかせて』 小俣 麦穂／著 講談社 『あさって町のフミオくん』 昼田 弥子／作 高島 那生／絵 ブロンズ新社
三越左千夫少年詩賞	『たとえば一人のランナーが』 半田 信和／著 竹林館
日本児童文芸家協会賞	『マレスケの虹 Sunnyside Books』 森川 成美／作 小峰書店
児童文芸新人賞	『わたしの空と五・七・五』 森埜 こみち／作 山田 和明／絵 講談社
児童文芸ノンフィクション文学賞	『しあわせの牛乳』 佐藤 慧／著 安田 菜津紀／写真 ポプラ社
小学館児童出版文化賞	『ある晴れた夏の朝』 小手鞠 るい／著 偕成社 『くろいの』 田中 清代／さく 偕成社 『わたしというんなねこ』 おくはら ゆめ／作絵 あかね書房
ひろすけ童話賞	『ふでばこから空』 北川 チハル／作 よしざわ けいこ／絵 文研出版
五山賞	『ころんこつつんこ』 こが ようこ／脚本 和歌山 静子／絵 童心社
小川未明文学賞	『湊町の寅吉』 藤村 沙希／作 Minoru／絵 学研プラス
野間児童文芸賞	『ゆかいな床井くん』 戸森 しるこ／著 講談社
けんぶち絵本の里大賞	『おしっこちよっぴりもれたろう』 ヨシタケ シンスケ／作・絵 PHP 研究所
日産童話と絵本のグランプリ	童話:『くじらすくい』水尻 紅美子／作 たなか やすひろ／絵 BL 出版
静岡書店大賞児童書・新作部門	『ころべばいいのに』 ヨシタケ シンスケ／作 ブロンズ新社
静岡書店大賞児童書・名作部門	『わたしのワンピース』 にしまき かやこ／えとぶん こぐま社

新着資料から

絵本



『ナイチンゲール』

アンデルセン／作
カンタン・グレバン／絵
松井 るり子／再話
岩波書店
2019年8月

昔、夜うぐいすとも呼ばれる鳥が中国の広大な庭にいた。旅人たちの本で初めて鳥を知った皇帝は、連れて来させその歌声に涙を流すが、御殿に置き自由を奪う。ある日、日本からまばゆい宝石の付いたぜんまい仕掛けの鳥が贈られ、もてはやし競わせるうち鳥は森へ帰って行く。やがて重い病の皇帝が壊れた作り物に歌を求めたとき、ナイチンゲールが来てやさしく歌い、ある約束をする。

柔らかな色の絵と平易な文が穏やかな、アンデルセン作の再話。

【高学年から】(宮崎)

知識



『読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫』

金治 直美／文
佼成出版社

2019年8月

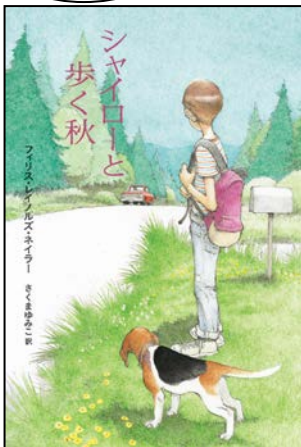
5歳で失明した少年は、本の朗読を聞くのが大好きだった。そして成長するにつれ、自分の力で本が読みたいと願うようになる。

13歳のとき入学した盲学校で彼は「点字」と出会い、そして「すべての盲人に読書の喜びを伝えたい」と決意する。

戦争や差別という苦境に負けず、日本に立派な点字図書館を創るという夢をかなえた本間一夫さんの激動の人生を描いた物語。

【小学校中学年から】(水井)

小説



『シャイローと歩く秋』

フィリス・レイノルズ・ネイラー／著
さくま ゆみこ／訳
岡本 順／画
あすなる書房
2019年8月

『シャイローがきた夏』(2014年刊・ニューベリー賞受賞)からひと月ほど経った秋。マーティの犬、シャイローの元飼い主であるジャドは最近酔っぱらっていることが多い。マーティはジャドがシャイローを取り戻しに来るのではないかと、酔ったジャドに車で轢かれたり銃で撃たれたりするのではないかと心配になる。

小さな町のゴシップと事実、隣人との付き合い、人間と動物との関係を、少年が子ども時代から成長していく心の様子と共に描く。物語は原書では全4冊出版されており、今作が2冊目。

【小学校高学年から】(眞子)

知識



『自由への道
奴隷解放に命をかけた黒人女性ハリエット・タブマンの物語』

池田 まき子／文
丹地 陽子／絵
学研プラス

2019年6月

ハリエット・タブマンという黒人女性を知っていますか？2020年に変わる予定のアメリカ新紙幣の肖像となる女性である。

ハリエットは南北戦争が始まる前の1822年に奴隷の子として生まれ、27歳の時に奴隷主から逃亡しました。その後、奴隷の逃亡を手助けする秘密組織で奴隷制度からの自由のために活動をする。ハリエットの生涯がわかるノンフィクション。わかりやすい文章で理解しやすい。商品としてしか扱われなかった奴隷のつらさも伝わる。

【小学校高学年から】(青山)